

## 第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

イベント名	連携交流と協働の大切さ＝流域圏再生について皆で考えよう～わたしたちも発信します！みなさんも発信して下さい！～
主催者	琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会、筑後川流域連携倶楽部、緑川の清流を取り戻す流域連絡会
開催日	2007年12月 <input type="checkbox"/> 1日 <input checked="" type="checkbox"/> 2日 <input type="checkbox"/> 3日 <input type="checkbox"/> 4日 <input type="checkbox"/> 5日
開催時間	14:00～17:00
開催場所	<input checked="" type="checkbox"/> 別府市内 <input type="checkbox"/> 大分県内 <input type="checkbox"/> その他
会場名	大分県ニューライフプラザ 視聴覚室
参加人数	約60名

### 開催概要（900字以内）

「近畿地方の琵琶湖・淀川流域圏と九州地方の筑後川流域圏と緑川流域圏における活動の互いのよいところを学ぶ」という目的で、各流域圏で活動する人々が連携したセミナーを開催した。

#### ◆内 容

①第一部：琵琶湖・淀川流域圏の取り組み事例と九州流域での取り組み事例報告を、NPO、行政の6名により、リレー形式で報告した。

②第二部：琵琶湖・淀川流域圏と九州流域での取り組みの中からお互いが学び、今後より良い活動を行っていくためにパネリスト等7名により、パネルディスカッションをし、意見交換した。

#### ◆結 果

本セミナーにおいて、各流域で活動する人々が、単独では実現困難な課題に対して、関係者または関係機関が連携し、これによって創出される相乗効果を通して解決した事例を発表し、「連携と協働」の重要性について意見交換し、下記のことを確認した。

○これまで水を通して蓄積されてきた流域圏の豊かな自然、文化、歴史などの資産を次世代によりよい状態にして継承するには、様々な主体の知恵を結集することが必要である。このため、住民をはじめ、行政、企業、NPO、研究機関等さまざまな主体の連携をこれまでより以上に進めていく。

上記については、セミナー参加者総意のメッセージとして、「第1回アジア・太平洋水サミット」参加者へ発信した。

今回のサミットにおいて、参加者の「連携と協働」を通して結集された英知により、アジア・太平洋地域の水問題の解決に向けた方策が示され、大きな成果が得られることを、強く念願する。



日本水フォーラムに期待すること（600字以内）

<流域全体で解決しなければならない課題についての情報提供>

（一例として）

琵琶湖・淀川流域圏の水は、琵琶湖やダム湖等の上流域で利用され、その後、京都を中心とした中流域、さらに下流域の大阪平野で利用されるなど、反復利用されているという特徴から、流域の課題として、

「非意図的な間接的再利用」

が、挙げられる。

よって、「再生水に関わるリスクマネジメント（人・生態系・環境への軽減、下水に含まれる病原体、有害物質の技術マネジメントなど）」や「再生水利用に対する国民の合意形成」について、諸外国の先進事例を、集約し、反復利用されている流域圏（琵琶湖・淀川流域圏も含め）へ情報提供されることを期待します。

その他（オープンイベントを開催した感想、今後の予定など、600字以内）

<感想>

今回、オープンイベントに参加してセミナーを開催し、国内の各流域圏で活動されている方々と交流を図ることができ、大変有意義であった。また、セミナー参加者総意のメッセージとして、「連携と協働」の重要性を「第1回アジア・太平洋水サミット」参加者へ発信したが、サミット参加者との双方向のやりとりの場が少しでもあれば、更に良かったと感じた。

<今後の予定>

平成20年5月10日（土）に当協議会の平成19年度の活動を報告する「琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会年次報告会」と、活動内容について有識者の方々から意見・助言をいただくことを目的とした、「琵琶湖・淀川流域圏再生有識者委員会」を開催し、市民、企業、行政等のそれぞれの主体・分野を超えたパートナーシップを構築して「琵琶湖・淀川流域圏の再生計画」を推進していきます。

